

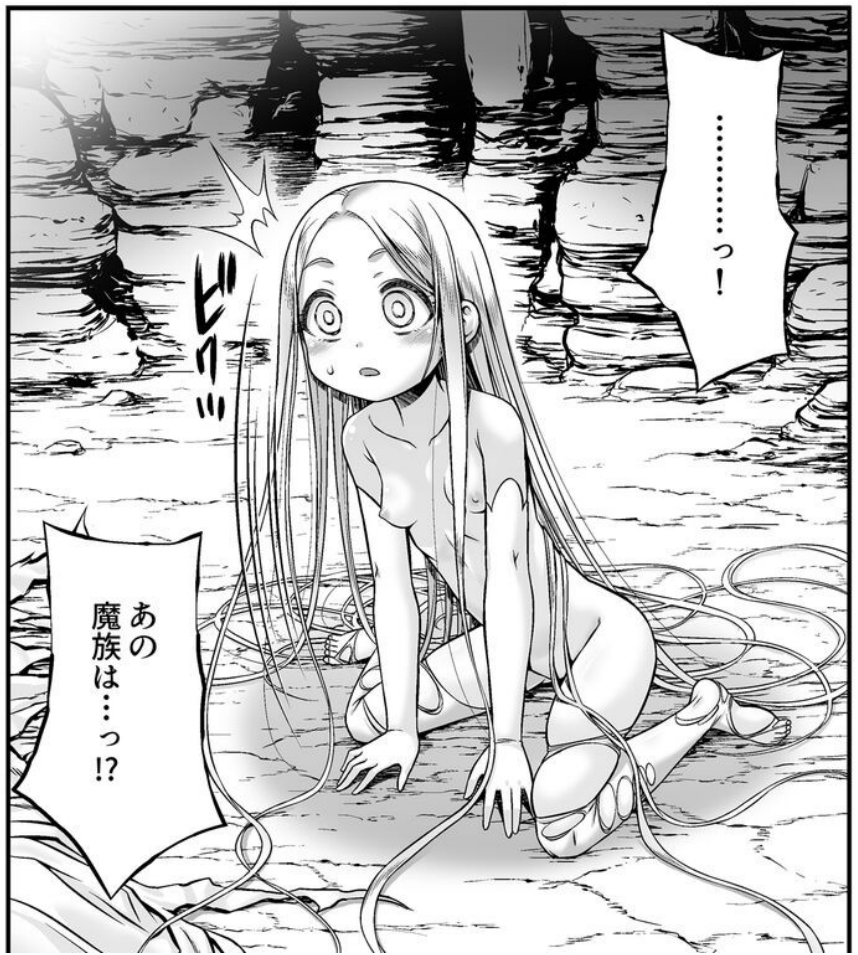
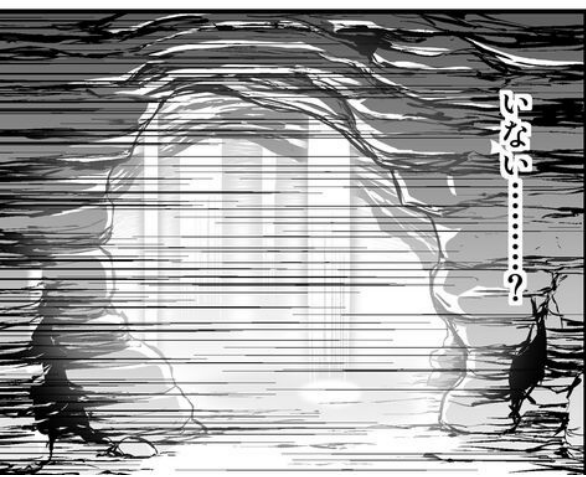
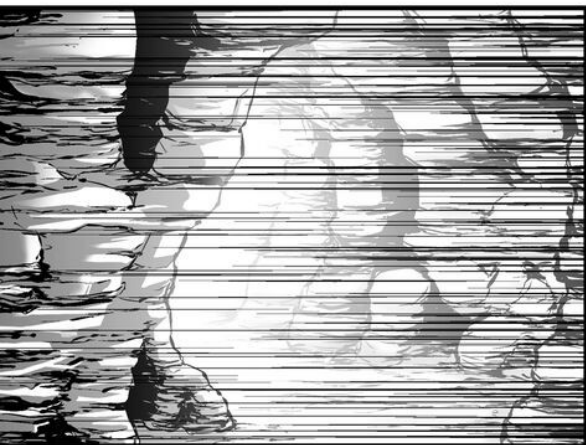
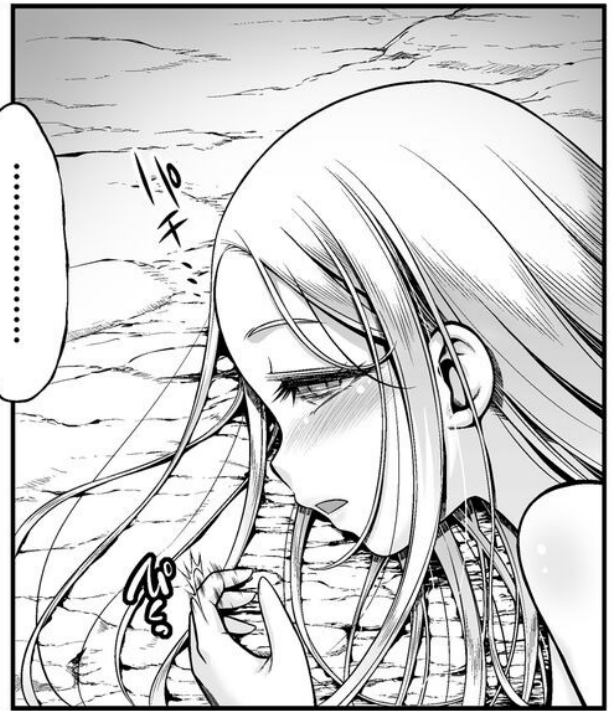
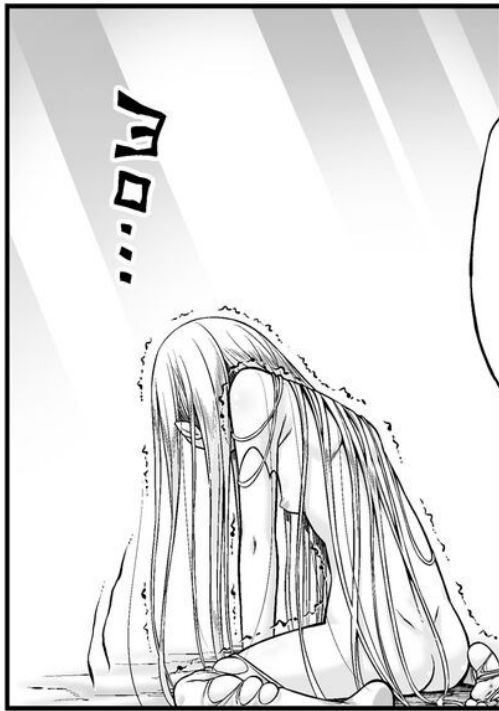
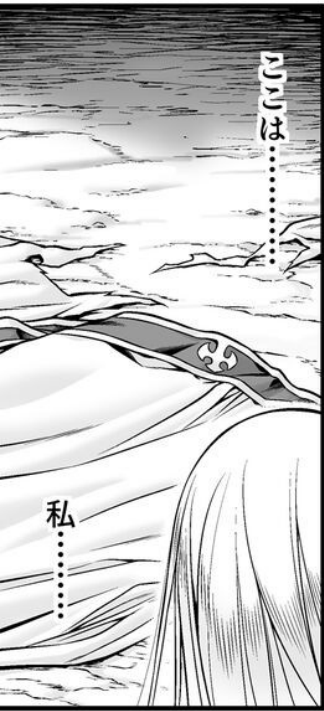
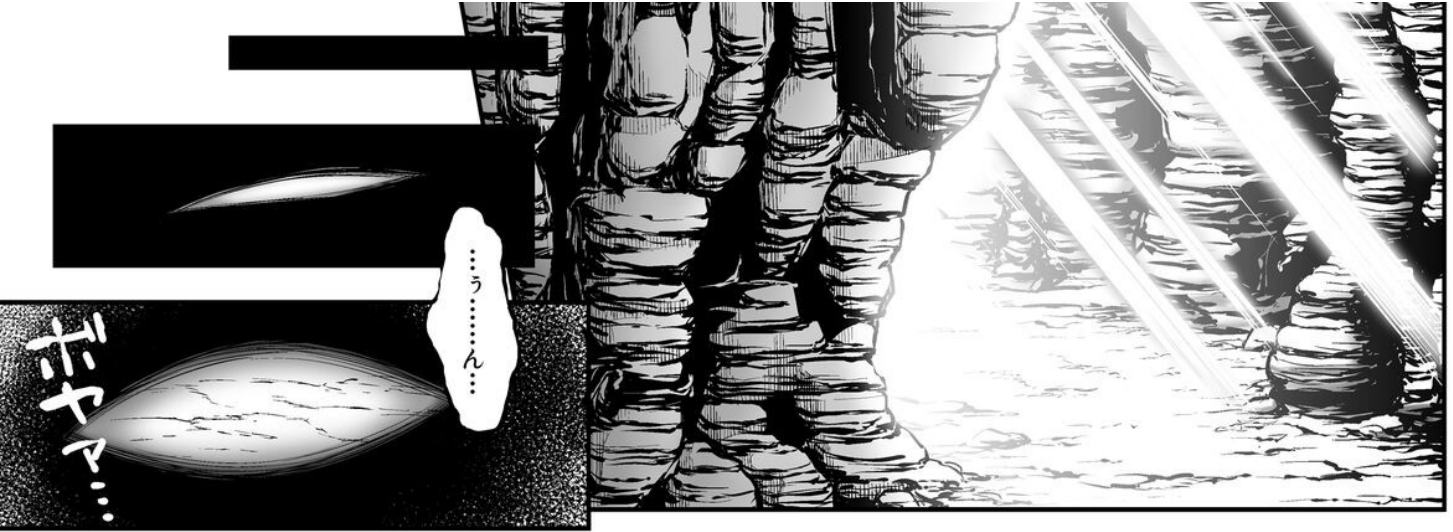


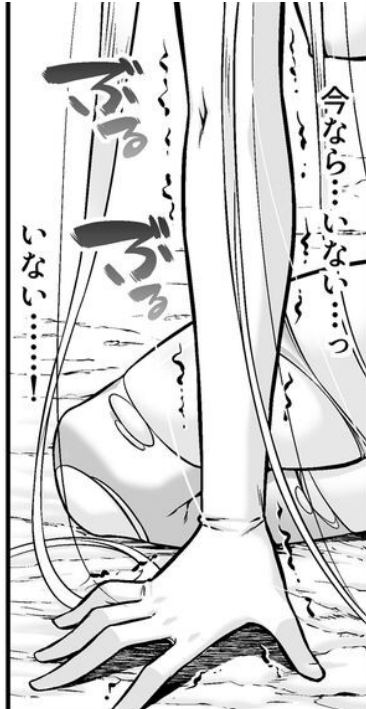
淫魔と

聖女

18

18
FOR ADULT ONLY
かぜうき





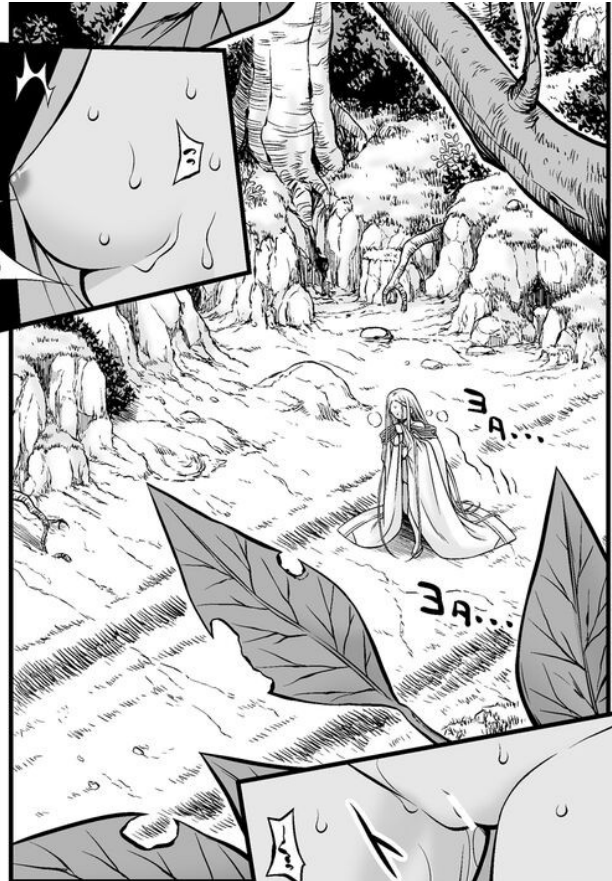


毒は全て浄化した
はずなのに...

何故...こんなに...
敏感に...



身体が...
おかしい...

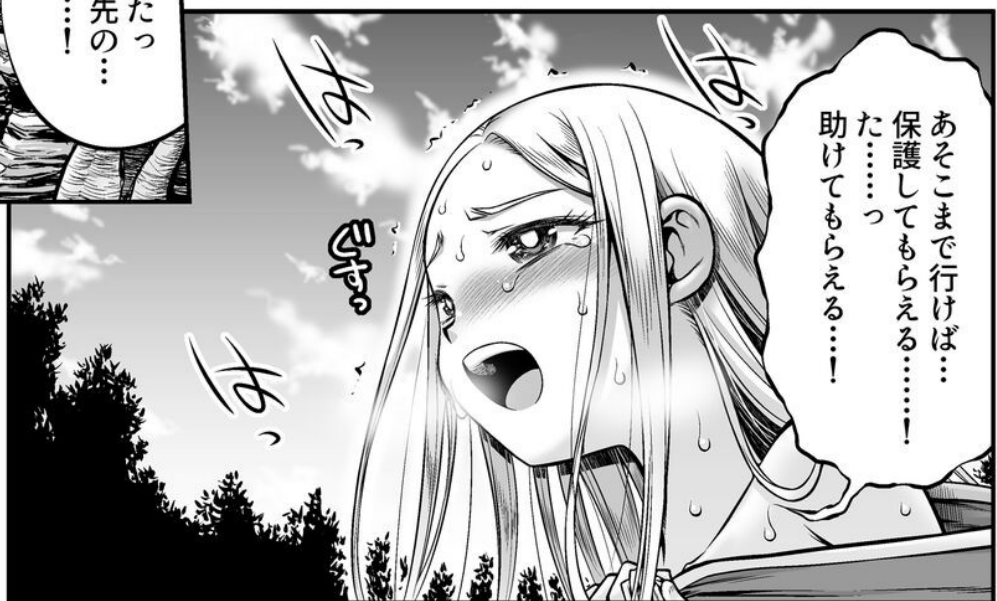
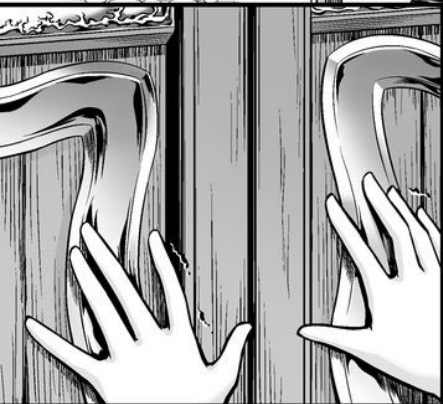


女神様...
どうか...聖堂へ
たどり着くまでの
間だけでも...
お護りください

あの魔族が戻って
きませんように...
なにも起こり
ませんように...
どうか...どうか
ご加護を...



見えたっ
巡礼先の...
聖堂...!



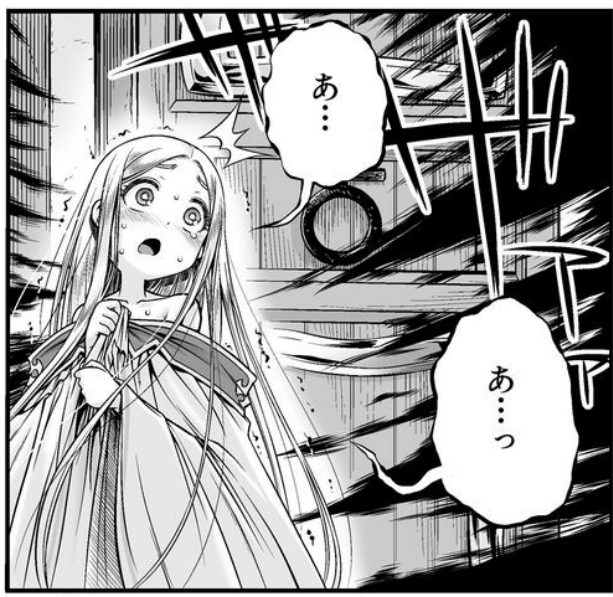
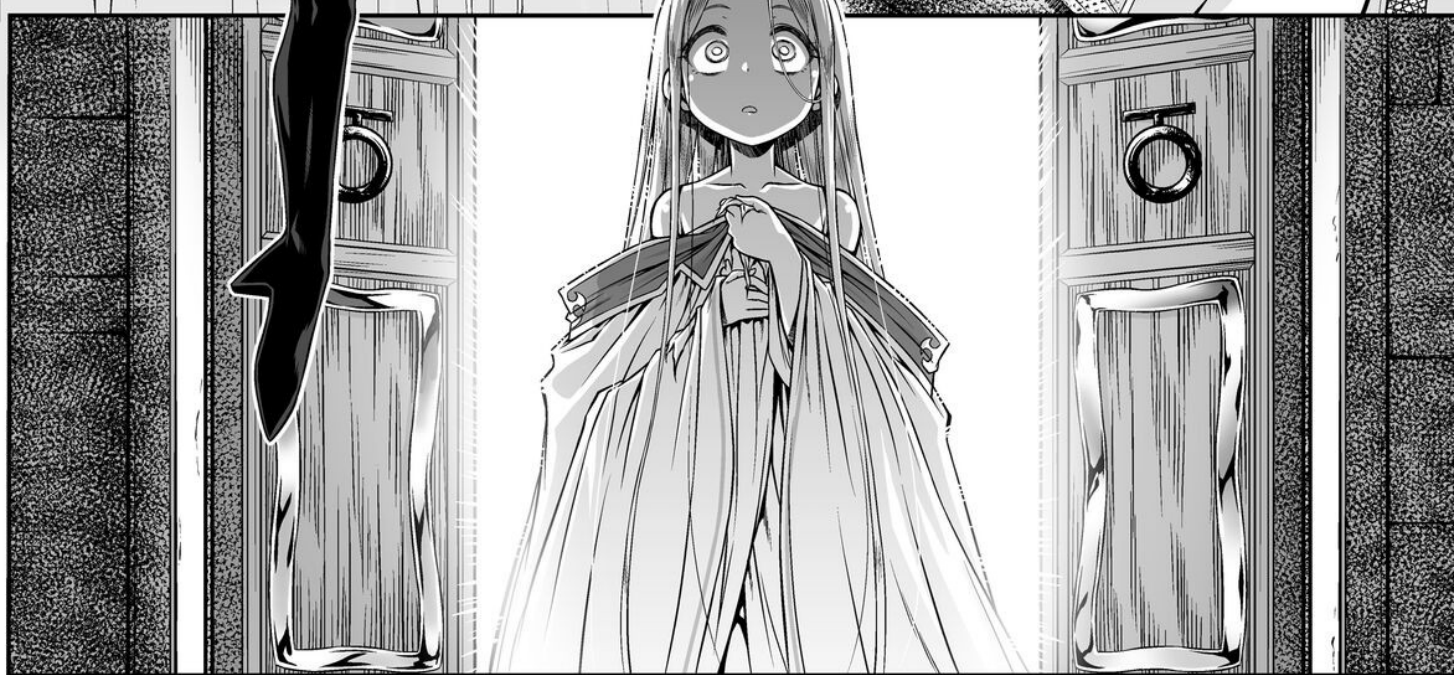
あそこまで行けば...
保護してもらえる...!
た...っ
助けてもらえる...!





あら

おかえりなさあい♡
遅かったわね



あ…

あ…っ



え……………？



残念だった
わね

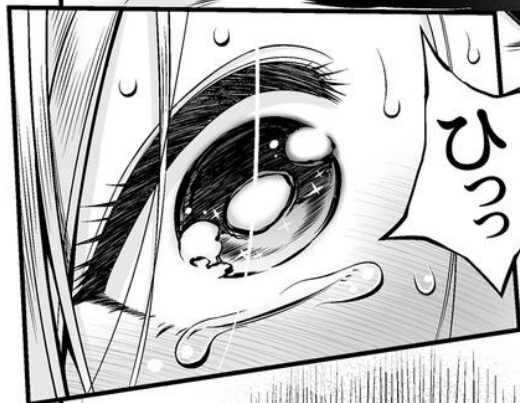
出口がっ

でっ出口っ

必死に身体を
引きずっている貴女
可愛らしかったわあ

加加





ああ…可哀想に
すっかり怯えちゃって…
昨日は酷かったものね

昨日はね
私も貴女の力が
怖かったから

だからつい
やりすぎちゃったの
ごめんなさい

あんなに酷いことした
私を許してくれるなんて…
聖女様は優しいのね

許してくれる
かしら…?

はひっ
はひい…っ

お礼に

今日は私も
優しくして
あげる…♡

ひい…ッ

う…う…う…っ
ぐすっ

えぐ…っ
ゆ…許して…
ください…っ
もう…もう…っ

またあんなにされたら
死んじゃう…死んじゃう…っ

どうか…どうか…

おねがっ
しま…っ
えうう…っ
ひっくっ

そんなに
怯えないで
安心して

昨日みたいな
乱暴はしないし

術も媚毒も
使わないから

そんなものなくても
とろとろに蕩けさせて
あげる…♡

んく
んふ
んあっ

もし怒らせてしまったら

ん？

どうかした？

ぎゅと……また……



助けて…

誰か…助けて……



小ぶりでも
可愛い
お尻♡

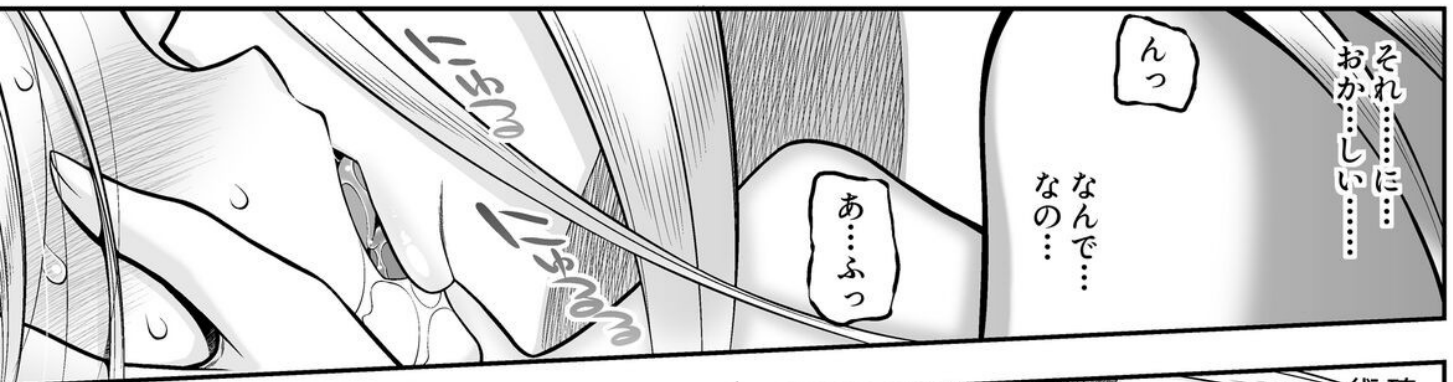
身体……
動かない……

怖い……
怖いよお……



んふ♡

怖い……



期待…なんて…

もう気持ちいいのは
嫌…です…

そんなこと言わずに
素直になりましょう？

ひっ

嫌…なのに…

何故…こんなに
触られるのが…

や…っ

…っ

ん

くう

心地よく感じて
しまうの…

ぱん

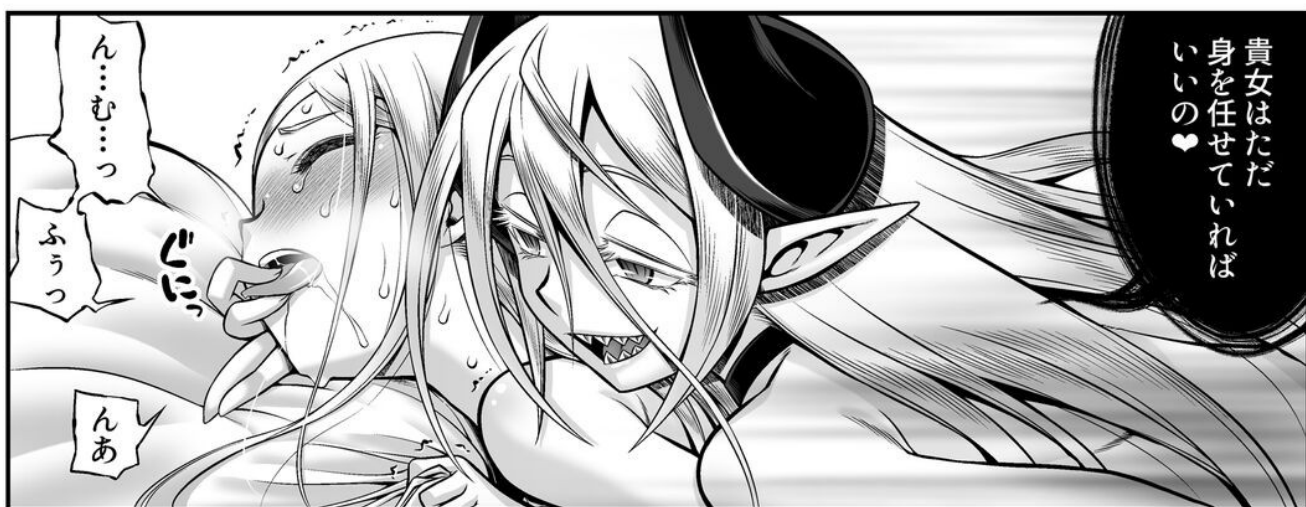
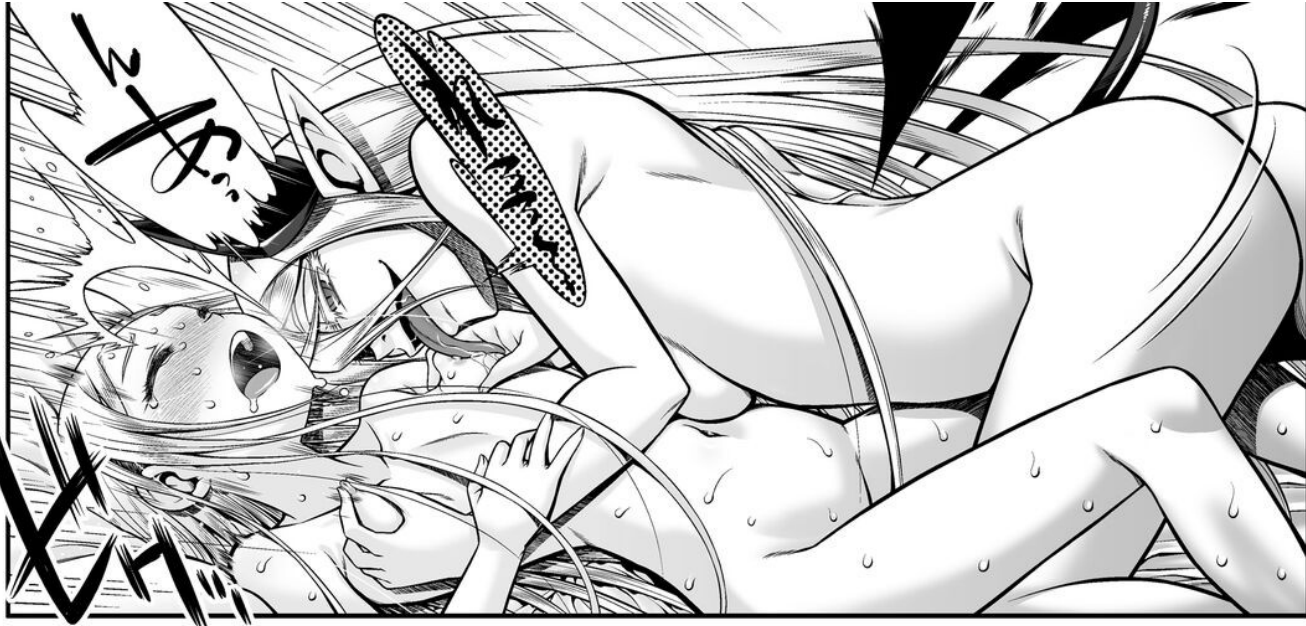
ん

ん

ん

ん

んう…っ





なぜ…なの…

昨日みたいに
激しくされて
ないのに…

腋胸も…

ふっ

ふう

んふっ

ん

んくっ

…んで…

すごく
敏感になっている
ような…っ

なん…っ
なん…でえ…♡

な…んでっ

ふっふっ

びびび

びびび

びびび

「こんなのおかしい」

なんれっ

「術もかけられていない
媚毒も全て浄化した
はずなのに」

や

ん

「なぜこんなにも
感じてしまうの」
ってところかしら？

ん

んくっ

むっ
むっ

んあっ

むっ
ぐに

うう

ひんう

それはね
今の貴女の身体は
衣擦れひとつでも
感じてしまうくらい
敏感になって
しまっているから

ひ

あ
うう

きっかけは私の術や毒でも
高まってしまった性感は
他でもない貴女自身の
ものだからよ

そんな...

意思でどう
抗おうとしても
身体はもう快感を
受け入れてしまっ
ていてるってことね♡

そんな……っ

っ

う…そ

うそ

うう
うう

私の身体：
もうおかしく
なうでしまったの…？

は、は、は、
この魔族から
逃れても
ずっとこんな
身体なの…？

切なそうな表情
しちゃって♡
かお

それじゃあ…

そんな…はずない…っ
きつと…きつと
元の身体に戻るっ
…でも…でも…

どこを触られても
気持ちいい…
全然堪えられない…

気持ちいいの全然
とめられないよお…っ

っ…は…♡

あ

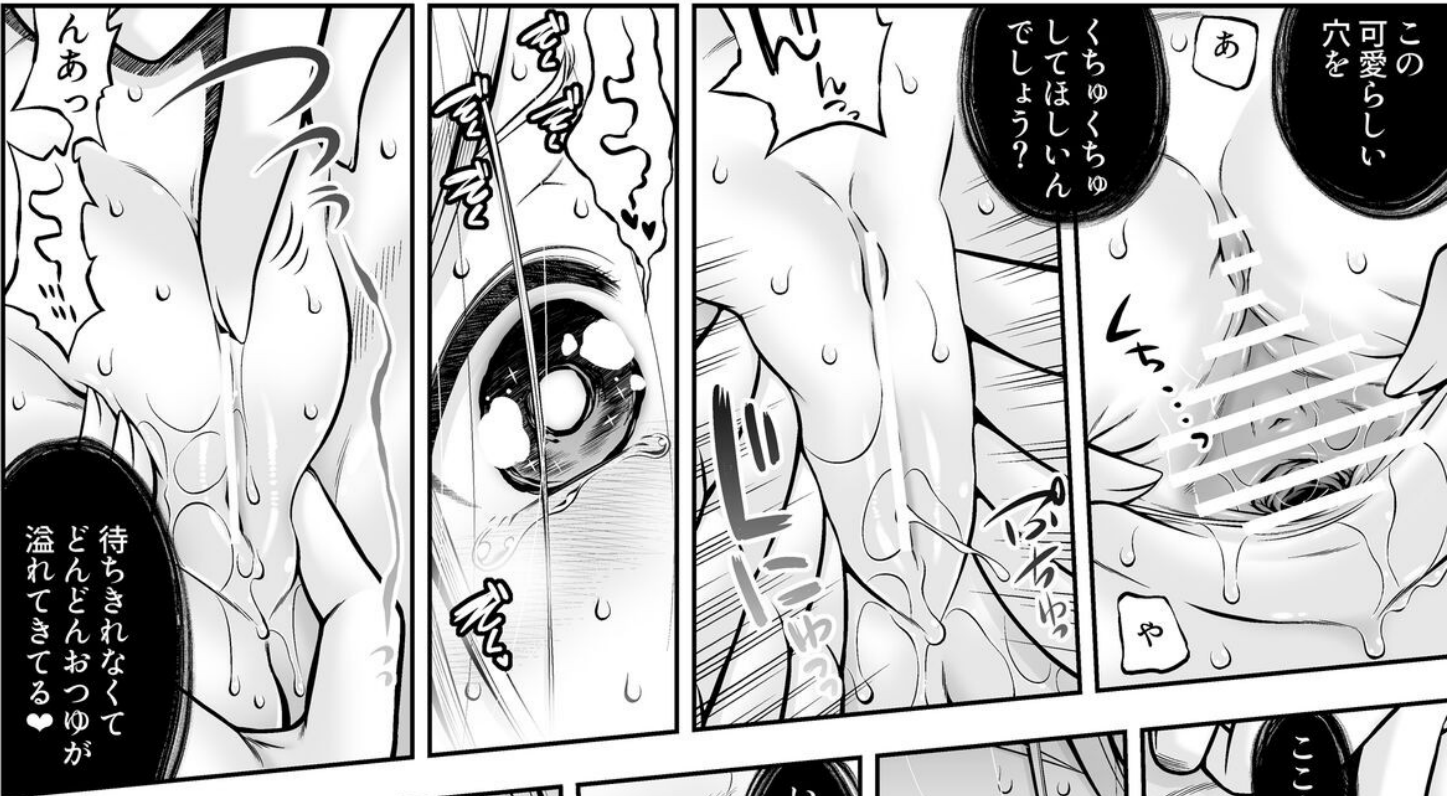
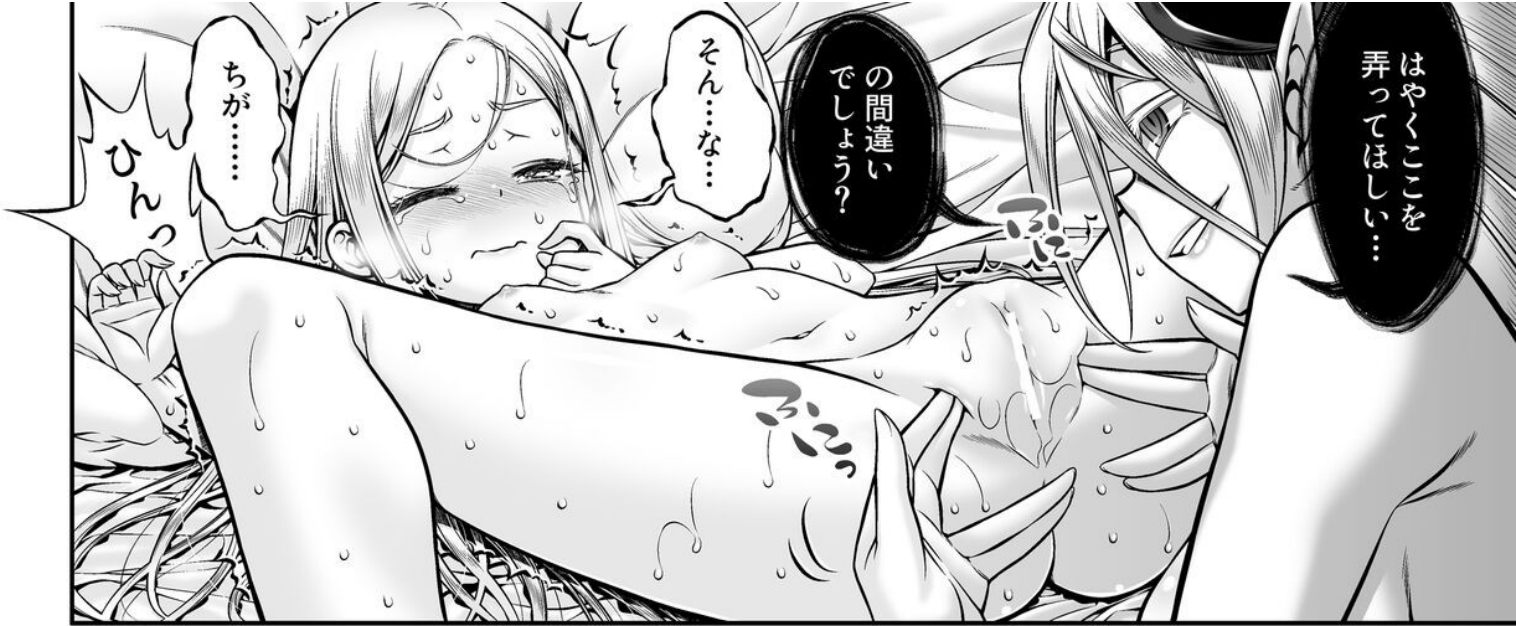
あ…

ふふっ

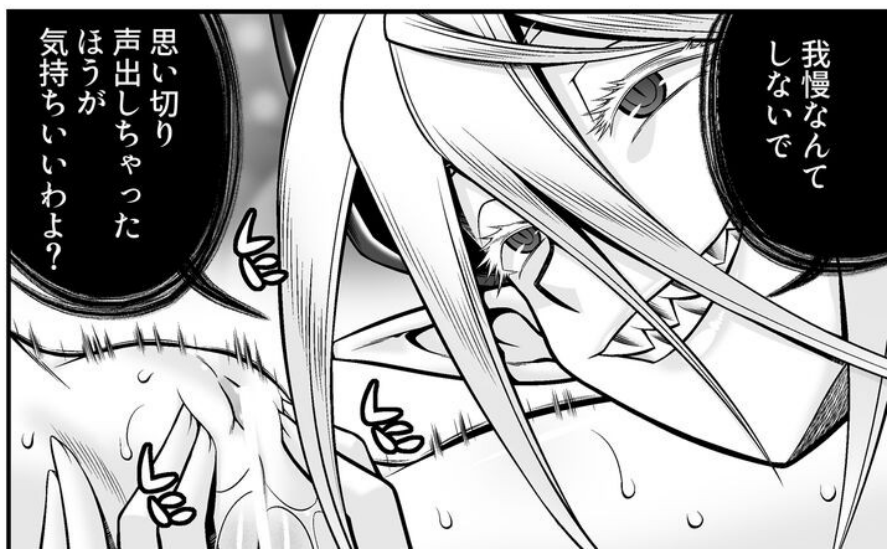
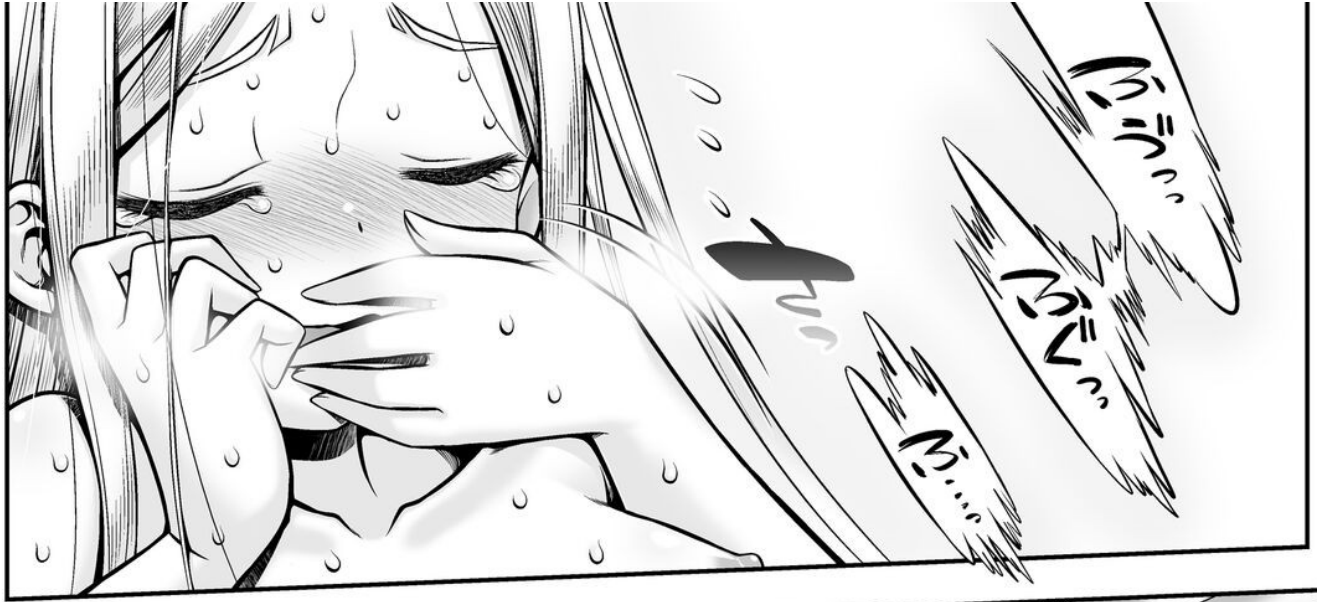
×るるるる

んじなまだよ…♡









貴女似のエッチ大好きなのに
恥ずかしがりのお豆ちゃん…

そこはっ

だめっ
だめっ

やめ…っ

ひ……あっ

や……め……っ

出て
おいで

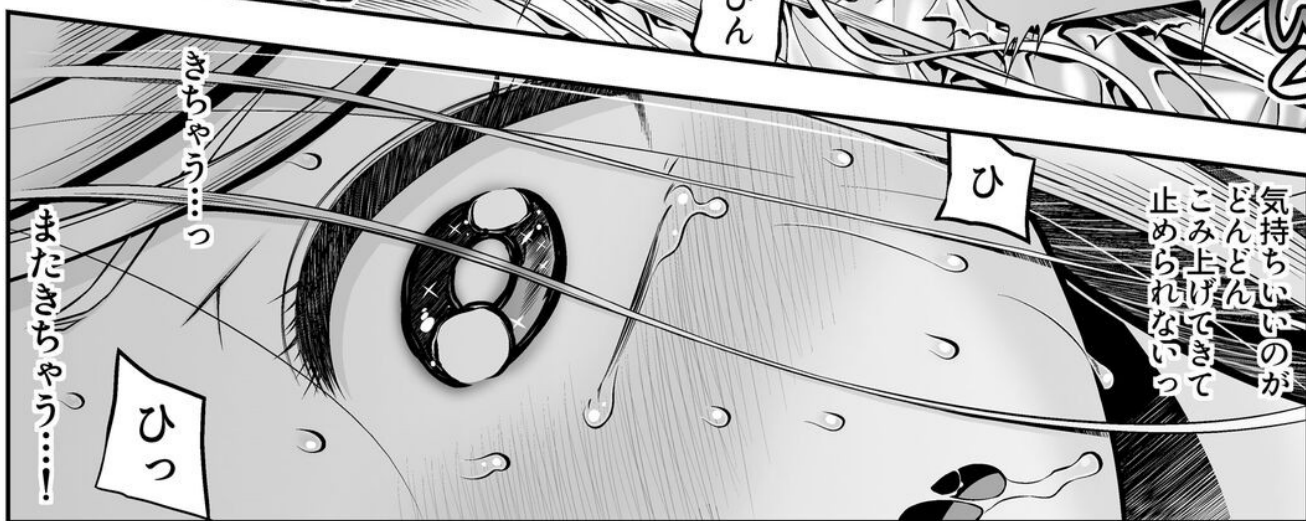
お豆ちゃん
お豆ちゃん
お豆ちゃん

お豆ちゃん
お豆ちゃん

あ

あ

あ



絶頂がきちゃうー！



止まった？！

……？

ちゅっ…



そしてその魔力は
性的興奮で
こうして体液とともに
滲み出てくる



快楽に悶え
絶頂を繰り返すたびに
より色濃く滲み出す…

わたしたち
淫魔はそれを
啜って糧にするの



ねえ…
女神の加護は何故
子宮に宿って
いるのだと思う？

な…ぜ…？

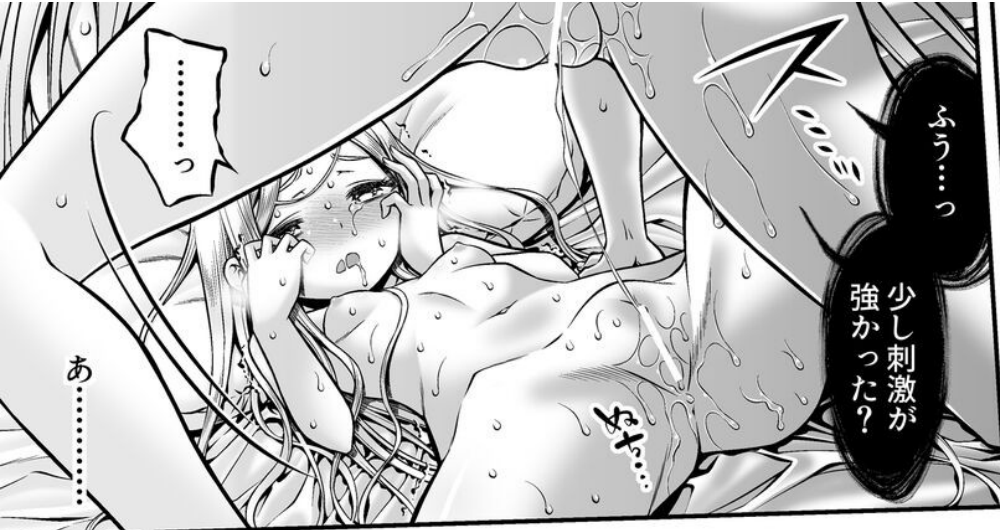
貴女の加護は
器としての高い資質と
何より澄んだ魂に
引かれて宿ったもの

あ…
な…

それはね
魔力の巡りは
性とも強く結びついて
いるからよ







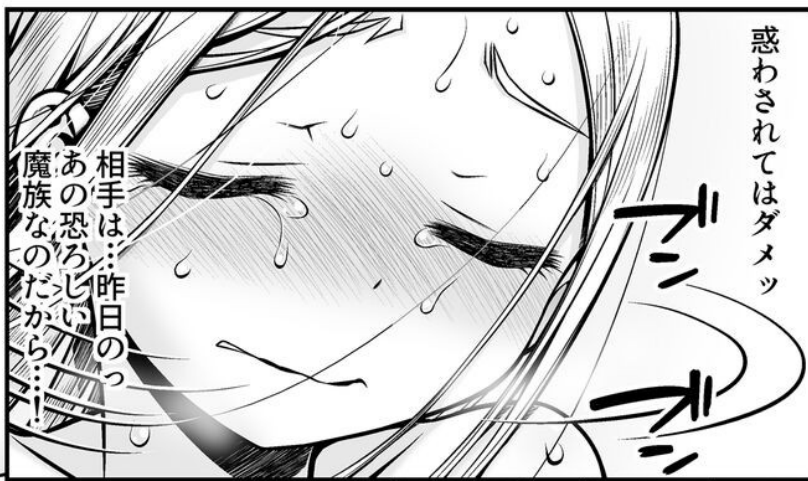
ふう……
少し刺激が
強かった？



あ
今度こそ
さちやう……！



ま……
また……



相手は……昨日の……
あの恐ろしい……
魔族なのだから……！

惑わされてはダメッ



今……私……
なにを考えて……！
達しなくて……残念……だど……！？



あ……
お腹の奥が……
疼いているような
感じが……する……

さっきから……
ずっと身体が
熱くて……

刺激が強すぎるなら
もう少しまったり
いきましょうか

……なのに……

もじ

もじ

もじ

自分で弄らないなら
もうしてあげないわよ

なんてね♡

あ…

ぶる

でも…

魔族にいいように
弄ばれるくらいなら
自分の指を挿れて
塞いじやったほうが
いいんじゃない？

ぶる

…っ

ここを私から
守るためなら
神聖な行為だわ

まも…る…？

ま…もる…

女神…さま…
の…加護…

は…

は…

ん

しゅ…

ん♡

これ…は…
加護を…まも…る…
ため…だから…

だ…だから…

どうか…どうか…
お許し…
ください…

お許し…
ください…

ん…っ

ふ

ふうっ

ふっ

ん…っ

ちゅ…

ちゅ…



あらあら我慢できずに
指動いちゃってるわよ♡



それじゃあ
守るといふより
オナニー
自慰ね

でもまだ
下手っぴ
みたいだし

手伝ってあげる♡



弄るのは
臆じゃないから
安心しなさい

あ…だっ
ダメッ





せ: 背中に
あたっているこれ...
これ.....っ



私.....また
犯されちゃう...!

犯されちゃう...
のに.....



貴女も
そろそろ
ここに

身体が...
熱くなるの...っ

ねえ...

なんでこんなに
どきどきして.....



おちんちんが
ほしいんじゃない?

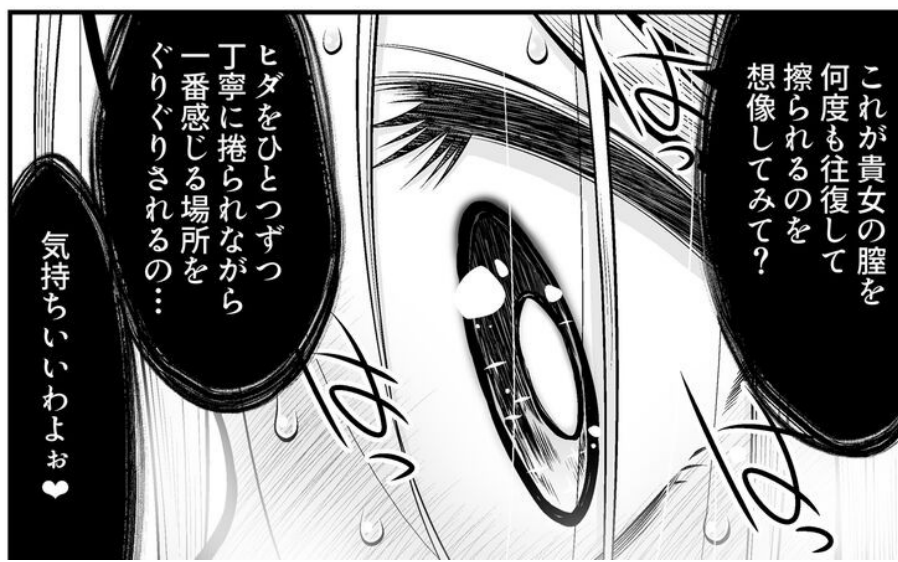
っ!!!



気づいて
いるんでしょう?



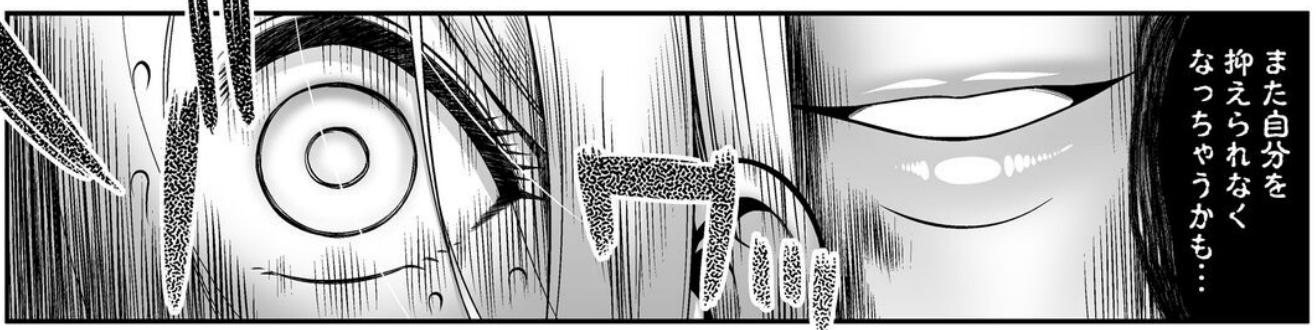
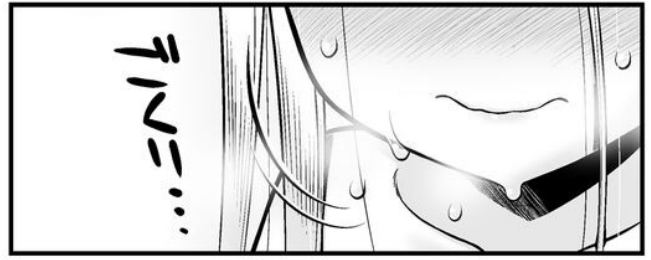
さっきから貴女の
背中に当たっているこれ...
あなたに挿れたくて
こんなに脈打ちちゃってる

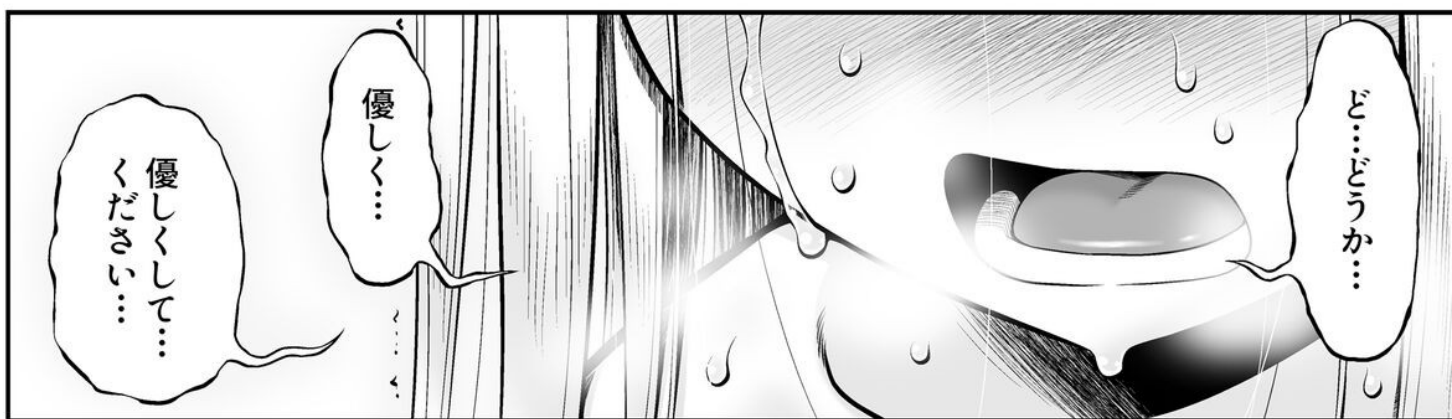


これが貴女の膣を
何度も往復して
擦られるのを
想像してみて?

ヒダをひとつずつ
丁寧に捲られながら
一番感じる場所を
ぐりぐりされるの...

気持ちいいわよお♡





嬉しい♡
聖女様に挿入のお許し
もらっちゃった

うう…っ

うんと気持ちよくして
あげるわね♡

ゆっくり
挿れるわよ

は…



…っ

ん…

あ

あ

あ

んあ…う

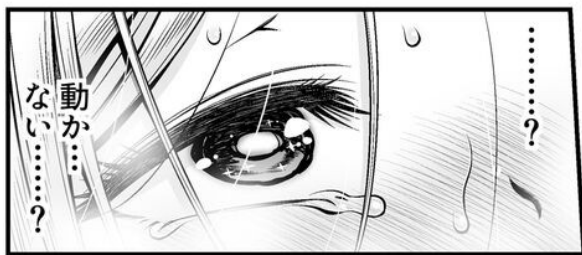
あ

あ

あ

あ







言ったでしょう？
貴女はもうエッチな
身体なの♡

そん…な…っ
嘘…うそお…

それに今は
昨日みたいに
無理やり快感を
与えているんじゃない
と

貴女に呼吸を
合わせているからね♡

貴女の身体が
欲しがっている所に
欲しいタイミングで
欲しい強さで刺激を
あげているからよ

そんなっ 身体ッがっ
欲しがってる…なんて

そんなあ…っ

ダメになっ
ちやう…

わたじのがらだ…
ダメになっちやっだ
よお…

いいじゃない
気持ちいいなら
ダメになっちやえば♡
ほら逃げようと
しないの

だめっ

こんなの
だめえ…っ

わらひっ
せいじよなのにつ

へっ

へっ

もっともっと
よくして
あげるから
ダメになっちやい
ましょう？

こんなの
だめなのにつ

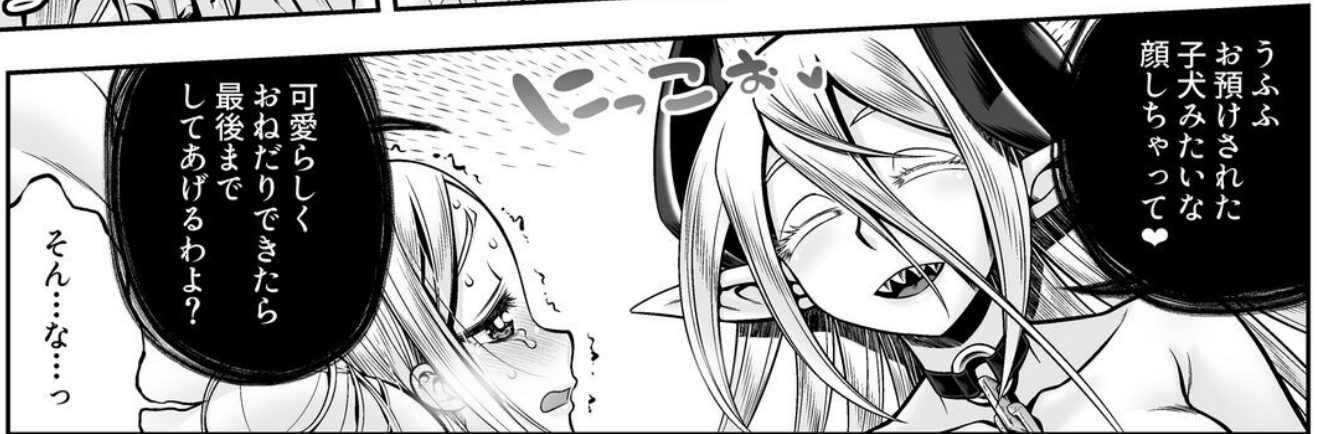
ぎもちよぐ
なっちや
だめなのにつ

あ…っ

はっ

んああ♡







この可愛らしい穴を
自分で広げて
おねだりする「フリ」を
するだけよ

簡単なこと
でしょう？

.....あ...っ

たえ狙いが
全てバレていても
今は従うしか
私にはできることがない...

ど...
どうか.....



だから...
これは仕方ないんです...

だから... ですから...
どうか...
お許しください...

よく
できました♡



あらあら
腰カクつかせちゃって♡
今にもイッちゃいそうね

あひ

でもだめよお
まだ我慢しなくちゃ

あ

はひいっ

限界まで耐えなきゃ
女神様に言い訳できないし…

ギリギリまで
堪えたほうが
気持ちいいから…

ねっ

あら大丈夫よお
私加減は上手だから♡

こんなっ
こんなのおっ♡

我慢できなひ
よおおおおっ

ほら...こうして
イかないギリギリを
責めることも
できちゃうし♡

んあっ

あ

うう...

また...
ゆっくり...

どーお?

おまんこ
気持ちいい?

うう...

グズッ

おま...?

お...

ううう...っ

ひんっ

ひ

そんなあっ

貴女のこの
おちんちんに
一生懸命吸い付いて
放そうとしない
エッチな穴のことよ

はひ

ひ...

っ

ん...

んう

どうなの?

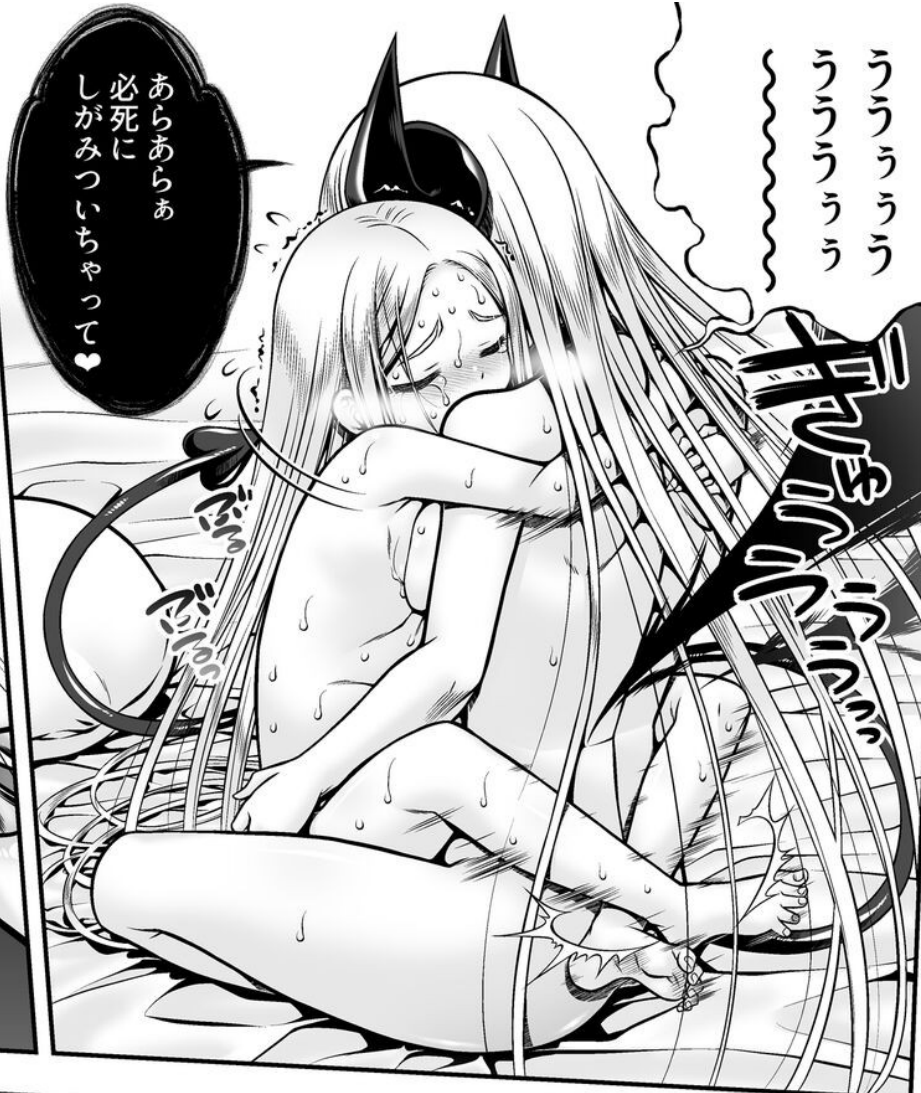
うう...

よくないなら...

抜いちゃおうか?



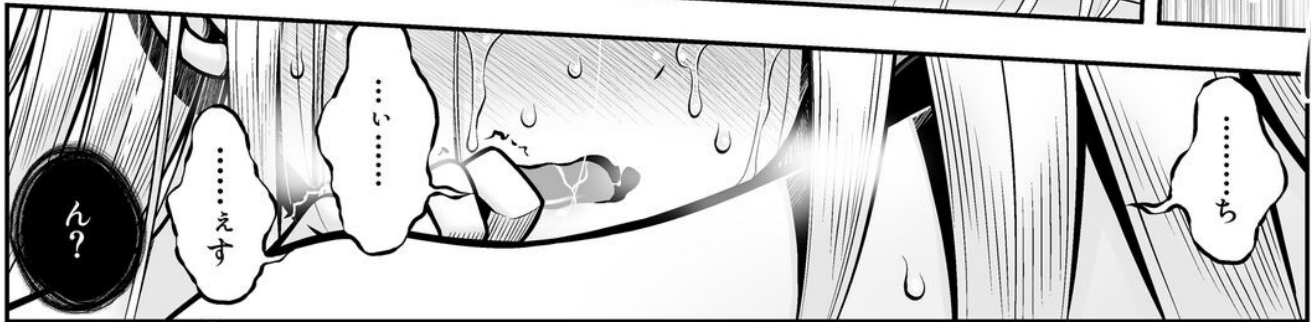
ううううう
ううううう



あらあらあ
必死に
しがみついちやって♡

大丈夫よお
ちよつとイジワルしただけ

最後まで
してあげる
約束だものね

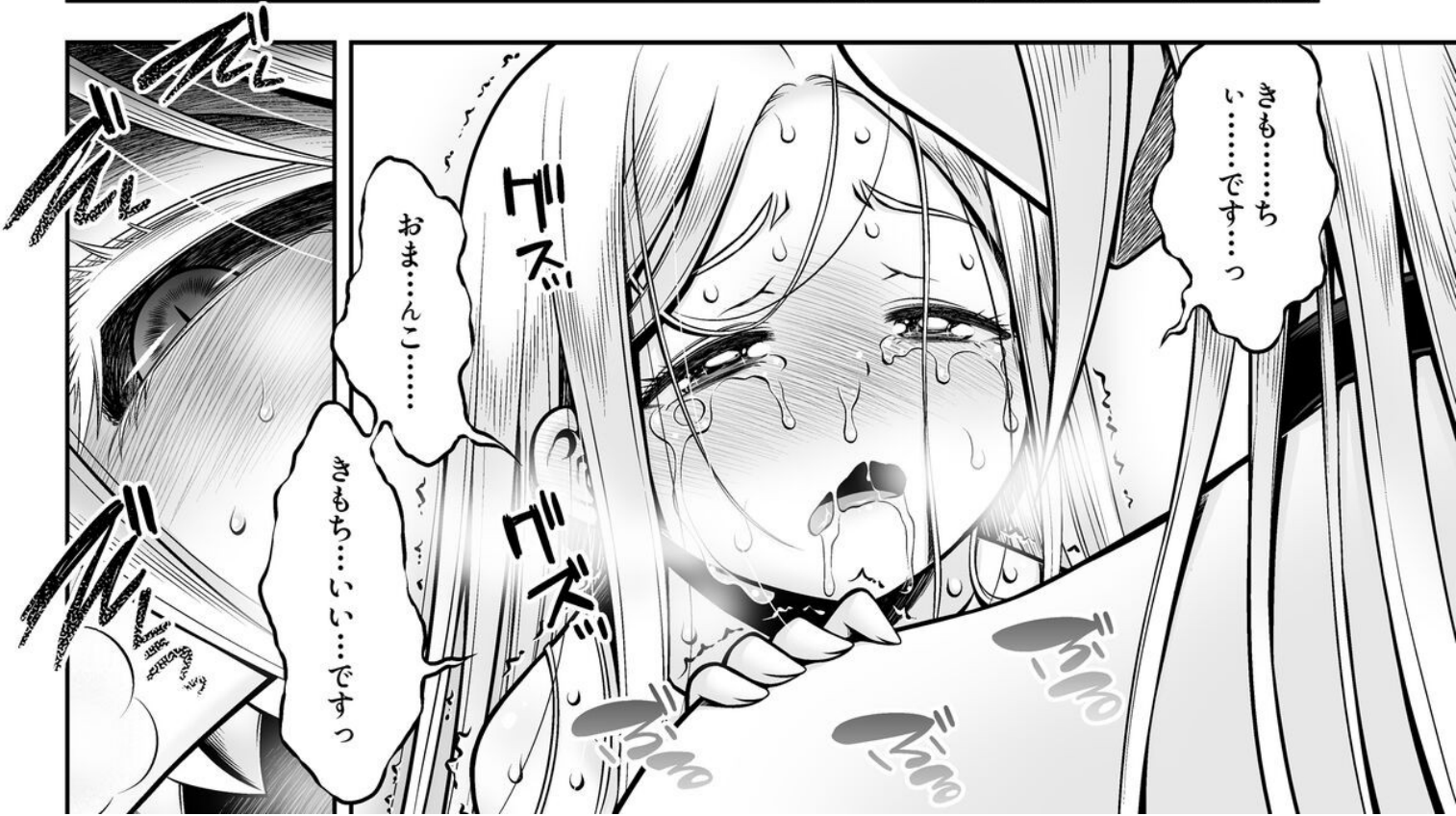


……ち

……い

……えす

ん？



ちゅ……ちゅ
……です……っ

おま……ん……

ちゅ……ちゅ……
……です……っ

ね♥ね♥
今のもう一回
言ってみて?

あ……
おまん……こ……

あ……♥

気持ちいい
……です

おまんごっつ
いいですっ

気持ちひい
れしゅうううっ



い……いき……たひっ

達したひっ

私もそうして
あげたいのだけれど
今私も興奮
しすぎちゃって……
このままだ
淫魔汁ぶちまけちゃい
そうなの

だからいったん……

抜かないで……っ
抜かないでくださひっ

でもいいの?
淫魔汁腔内に
出しちゃって

よく……ない……けどっ
あ……あとでっ
あとで浄化する……から
だからあ……っ

さ……っ
最後までっ
いかせて
くださひ……っ

うーん……



そーお？

だ…だから……

最後…まで

貴女がいいと言
うのなら遠慮なく
出しちゃおうかしら

ね♡

お

っ

バグッ

バグッ

バグッ

バグッ

バグッ

バグッ

バグッ

バグッ

バグッ

バグッ

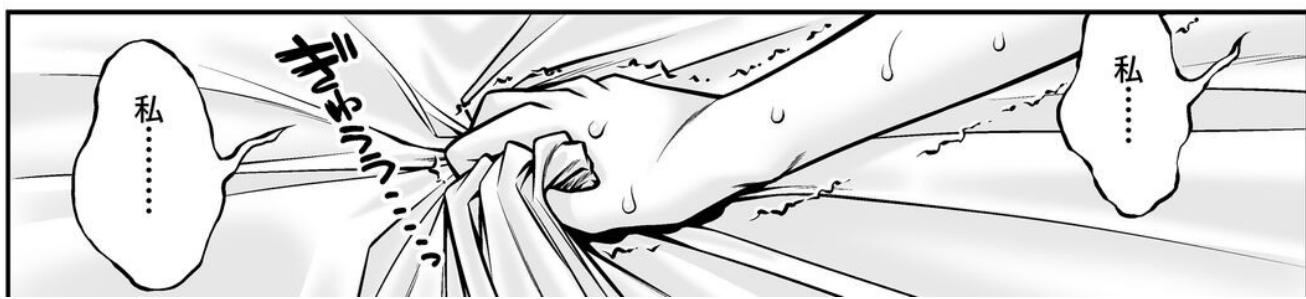
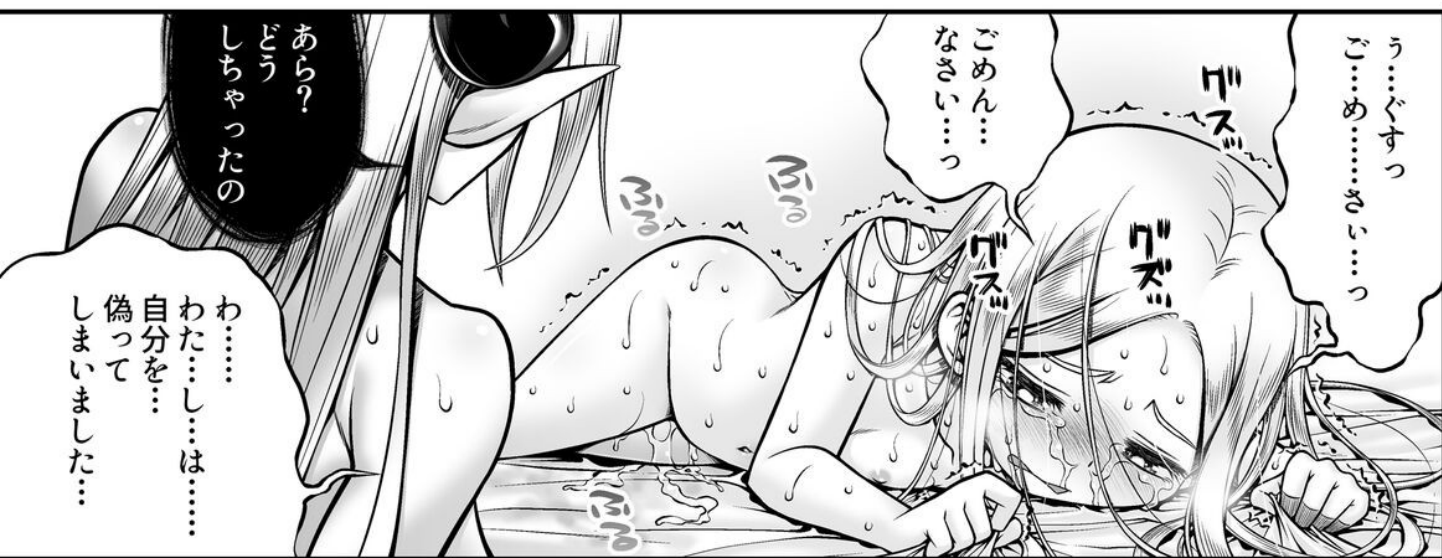
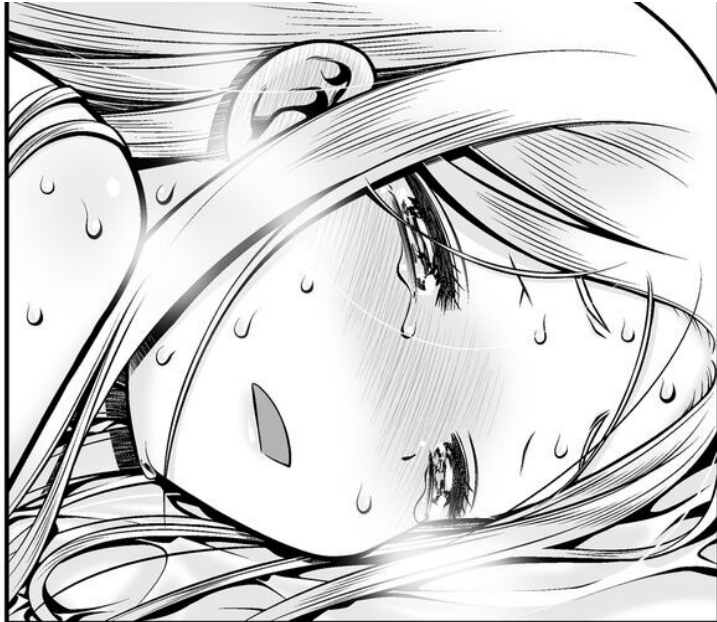
あはっすっこいっ
全然止まらないっ



あ...

はああ.....♡
普段よりいっぱい
出ちゃった...♡

はああ.....♡
普段よりいっぱい
出ちゃった...♡



今の射精も
昨日あれだけ注いだのも
私の体液は一滴も
貴女の子宮へは
届いてないのよ

んっ
あ

なぜだと思う？

はっ

な…
ぜ…

それはね
貴女を護る加護は
碎いたけれど
加護の本体は
まだ健在だから…

え…
めが…み…さ…
か…

だから本体の宿る
子宮に侵入するには
貴女に心の底から
淫魔を受け入れてもらう
必要があるの
でなければ永遠に
入り込むことはないわ

は…本当…に
まだ…？

どう？

安心した？

んううう♡

貴女がこの先
快楽に溺れることなく
清らかに貞淑に生きることが
できればもしかしたら
多少は加護も回復
するかもしれないわね

あ
や

自慰も
覚えちゃって
おちんちんを
ねだるほど
エッチ大好き
になって

もっ
ひき

だめっ

誰よりも敏感に
なってしまったその身体で
そんなことが
できればだけれど…♡

あ
ひき
うん
うん

それに…
よく考えてみたほうが
いいんじゃないかしら？

女神の加護は
貴女をあっさり
見捨てたくせに
今も平然と
自分だけを
護り続けている…
ということよ

は…っ

それ…は

ん

あ

あ

ひどい話よねえ

ちが…

きつと…
理由…が

それに…
たとえ加護が
戻るとしても
それは先の話

貴女の周囲の人たちは
そんなことを許し
待ってくれるかしら？

いじ…
らない…で…

んうっ

魔族にかどわかされ
純潔を散らし
快楽の味を識ってしまった
堕ちた聖女を

価値が無くなったと
判断されて
神殿を追放…
酷ければ処刑されて
しまうかも…

っ

それとも貴女に
あんな欲望を
抱いていた
人たちですもの

は…っ

監禁されて
慰み者に
されてしまうかも
しれないわね…♡

や

それでもまだ
帰りたい…？

……っ

わ…私…

しゅ

しゅ

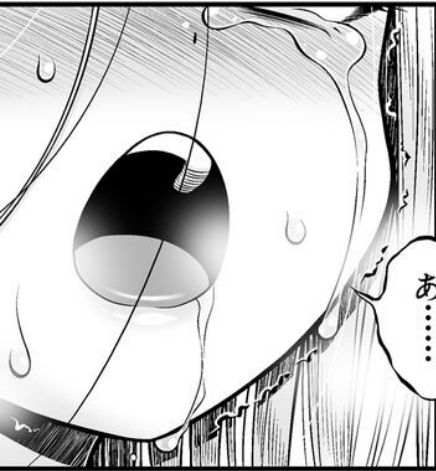
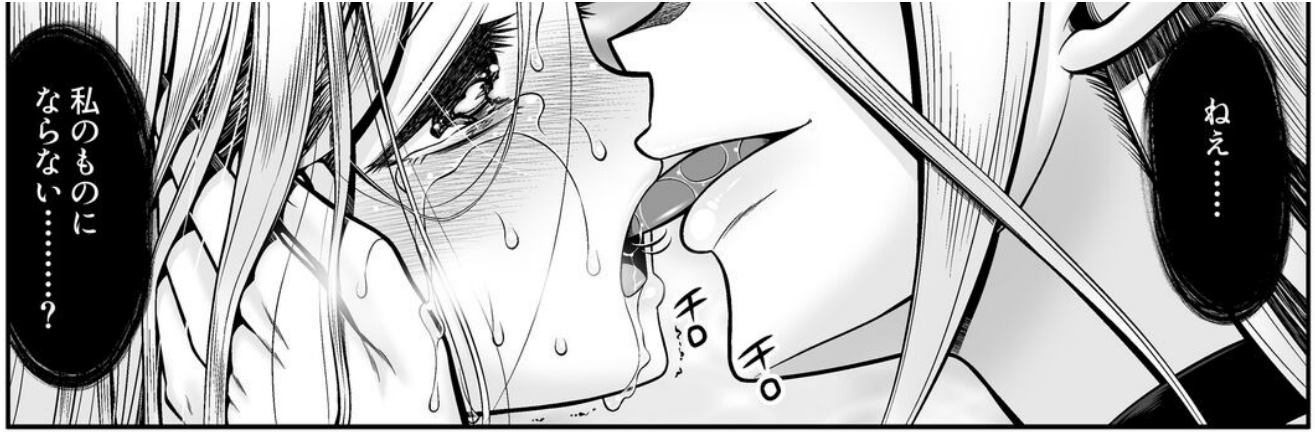
しゅ

わた…し…
は…

あっ

ん

あ



それは本当に
貴女自身が望んだ
ことなのかしら？

え……？

そ…それは…

私には貴女が
与えられた
聖女という役割に
従っているだけのよう
に見えるけど

ただ女神の加護が
宿ったというだけで

他人に押し付けられた
聖女という役を演じて
いるだけではないの？

思い出してみて…

女神の加護なんてものが
宿ってしまったばかりに

突然
知らない大人たち
ばかりの世界に
放り込まれて

不安ではなかった？

怖くなかった？

幼いうちに親から
引き離されて
悲しくなかった？

誰にも
甘えることもできなくて
寂しくはなかった？

なにも分からないうちから
聖女としての振る舞いを
求められ

厳しく躰けられ
教育されて辛くはなかった？

自由に外で遊べる
同じ年頃の子たちが

羨ましくはなかった？

家に帰りたいと
泣いたことはなかった？

友達欲しくは
なかった？

なかった？

加護なんて
なくなつて
ほしいと
願ったことは…

私……は……っ

……慰めてあげる♡

わ……わた……し……

ひうぐ

ひうぐ
ぽ

ぽ



他愛ない
会話をしたり

遊んだり

喧嘩したり



虫の居所が悪い時は
八つ当たりだつてさせて
あげちゃう



ねえ…

私と



毎日貴女を
満足させてあげるし

好きだから
甘えさせてあげる

ふぁ…ぁ♡

んぁ♡



お友達に

なりましょう？



こんなに
すんなり
啜えこん
じゃって

あ...

はっ

あ...♡

貴女のおまんこは
もう私のこと
大好きみたい♡

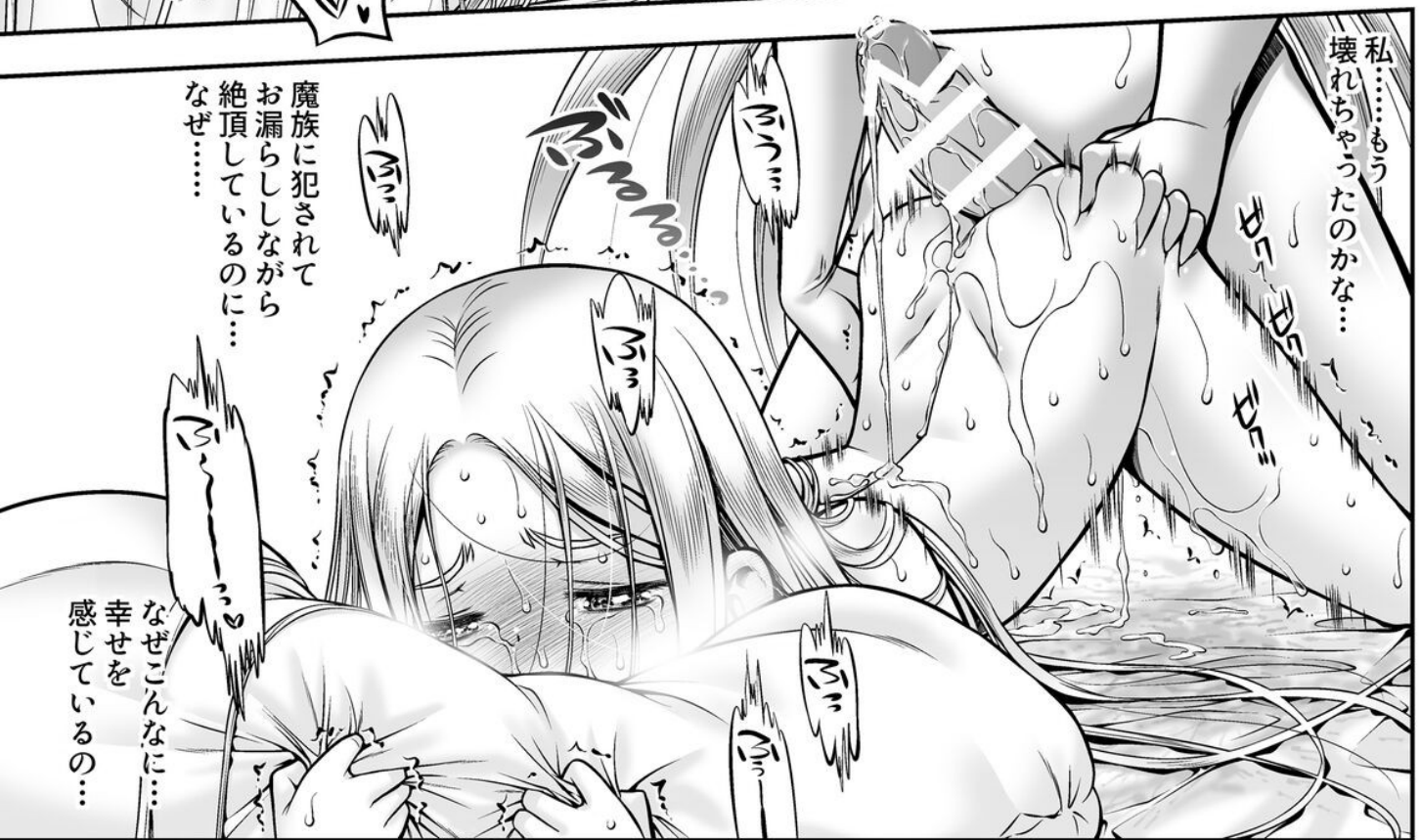
言ったでしょ♡
今は女神だって
見てないふたりきり
恥ずかしがること
ないわ

だから気兼ねなく
このまま

漏らしちゃいま...

しょ♡

あはっ♡
あったかあい♡



次で

最後にしましょうか

次に貴女が
達するのと同時に
私も射精するわ

私は貴女と
もっと仲良く
なりたいたいけれど

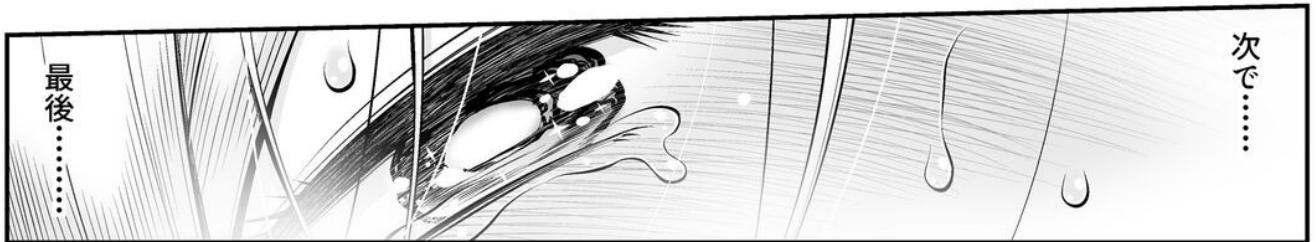
貴女がどうしても
女神を取ると
いうのなら

快楽よりも
苦難を望むのならば

その覚悟に
敬意を表して
それで終わりにして
開放してあげる

ほんと……に……？

そして二度と
貴女の前に
姿を見せないと
約束する





神官長様……たち……に……

神官長……様……

神官長

あ……



おわ……り……
だから……あ

さいご……
だからあ……♡



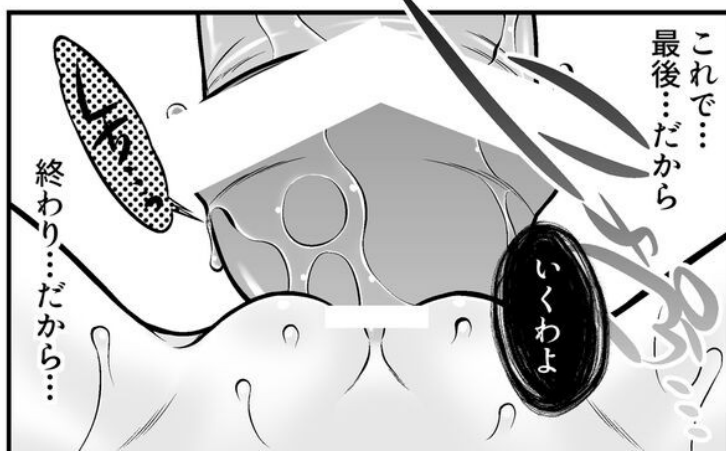
……でも……



魔族の術で
見せられた
光景などに
惑わされてはだめ……

信じなくては……

今の私があるのは
あのお方たちの……
おかげなのだから……



これで……
最後……だから

終わり……だから……

いくわよ













貴女と私は今

魂で結ばれた

契約

完了♡

あ…あれ…?

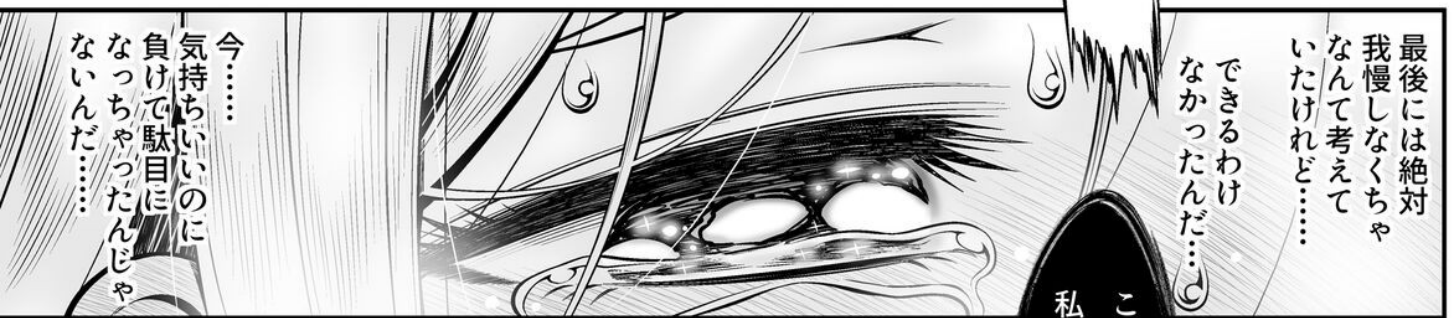
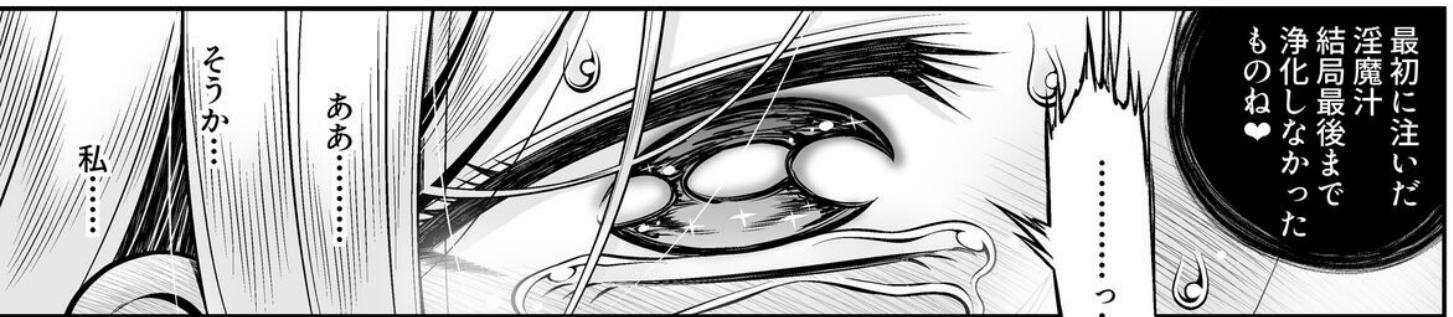
最後…なのに…

お役目……

ちゃんと
戻らなくちゃ……
いけないのに……

い……いけ……
なが……っだ……

の……



私と繋がれて印を
刻まれたばかりで
子宮が疼いて
仕方ないでしょう？

もう…

…あ

さあ…私に
どうしてほしい？
なにをされたい？

えへへ…

わら…ひ…
もう駄目…
なっちゃったのに…
終わっちゃったのに

あはっ

えへ…っ

貴女の口から
聞かせて？

我慢しないで

まだ…
してもらえん
ですか…？

いいんだ…♡

もう…
聖女でも
なんでも
ないのに…

なんの
価値もない
のに…

さっきは…
全然我慢
できなかったから…

もっといっぱい…
してくださいっ

気持ちいいの
もっとください…っ
いっぱいいっぱい
おまんこじゅぽじゅぽ
してください…っ

まだして
くれるなら

さっきの
続きをして
ください…







おまんこ

とけちやううっ♡♡



うふふふっ
少し気が早いわよ

蕩けちやうのは
これからなんだから♡

あ...っ
これっ
昨日のっ

こわれ...ちやうっ
わらひ...っ
今度こそ
壊されちやうんだっ

あらら
まだそんな心配
されちやうなんて
私って信用
ないわねえ

ちやあんと
加減して
あげるから
安心して♡

あ♡お♡あ♡あ♡あ♡
あー

ふふっ
さつそく甘イキ
しまくってるわね♡

ド・コ・ガ
イイのかなあ〜？
ここかしら？

それともここかしらあ？
一番いいところで
深イキさせてあげる♡

そっそこっ

そごもおっ
そこっ

ぞごっつ

そごしゅごひいッ
しゅごひよおッ

おっ

んお♡

いちばんごなのが
わがんにやひいイッ
ぜんぶっ
ぜんぶぎもちひいッ

ふふっ
それが望みだったでしょう？
おまんこほじられることしか
頭にないお馬鹿に
なっちゃいましょ♡

ごんなの味わったらっ
ごんなのっ
何度もされたら
どうにがなっぢゃい
ますうううッ

あだまッ
おぼがに
なっぢゃう
うううッ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ



そんなに
焦ることはないわ

あ……♡

あは♡

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

今日からは
これが貴女の
日常なのだから
毎日味わえるわよ♡

毎日……♡
毎日こんななんて

壊れちゃいそう……♡

えへへっ

あらあれほど嫌がつていた
淫魔汁を注がれて
悦んでいるし
もうだいぶ怪しいんじや
ないかしら？
でもまだまだこれからよお

ふああ……♡

もおろつと気持ちよく
なれるように
じっくりと念入りに……
世界中のどんな好色で淫らで
色狂いの卑しい娼婦よりも
善がり狂える身体に
開発してあげる♡

さあ一緒に
どこまでも堕ちて
しまいましょ

わたし
淫魔の
可愛い可愛い
聖女様♡



■誌名 : 淫魔と堕ちた聖女
■発行 : かぜうま
■発行者 : 南☆
■発行日 : 2024年9月14日
■連絡 : isogai@big.or.jp
■印刷 : サングループ

※未成年者の所持閲覧を固く禁じます
※無断転載・複製、
ネット上へのアップロードを禁じます

あとがき

お久しぶりです。はじめの方にはじめまして。南☆です。

前回もページ数が多くなって作業中にすごく後悔したはずなのに描きたいものどんどん描いてたらさらにページが増えました。アホです。

実は元々は今作と前作をあわせたと話を1パッケージ50数ページくらいで考えていたのですが、ちょっと展開が急ピッチすぎるのと、もっとじっくり描写したいシーンが増えたため二冊に分かれました。二冊合わせて予定の3倍近くになってしまい、むしろどう50数ページに収めるつもりだったのか今となっては謎です。いや探せばどこかにネームが残ってるかな…。そんなわけで前作が快感という名の暴力で徹底的に心を折りにいくパート、今作が事実上抵抗が一切許されず全て受け入れざるを得ない状態で墮落させられるパートになります。

キリのいいところで分けた結果、前作ではひたすら乱暴されるだけの内容になってしまい、いや、むしろそれがいいんだろう！？
というような鬼畜趣味な方は、今回の内容は期待はずれだったり物足りないと感じてしまうかもしれませんが、個人的にはやはり聖女たるもの乱暴されて無理やり淫紋刻まれました、も趣がありますが、信仰心も使命感も残しつつ、それが駄目だと理解しながら抗えず快楽に手を伸ばしてしまい最終的に「受け入れてしまったのは自分自身でした」という烙印を押されてこそだと思いますのでどうかご容赦ください。

実はこの先のお話も考えていて、聖女以外の犠牲者も登場したり聖女様自身はもうダメだこの聖女感がどんどん加速していく予定なのですが次回作は一旦このお話の続きとは別の一話完結のものを描きたいと考えています。一作描くのにくらなんでも時間がかかりすぎているので次はもう少し時短を心がけたいです。

それでは、また別の作品でお会いできれば幸いです。